

## 学 会 記 事

### I. 令和4年度 緑鳳学会第31回大会

開催日時 令和4年10月22日(土) 12:00~17:30

1. 開催場所 神田校舎7号館3階731教室

#### 2. プログラム

(1) 会長挨拶 近江 吉明(緑鳳学会会長)【12:00~12:05】

(2) 研究発表会【12:10~13:10】

発表者: 古屋 波(専修大学大学院 法学研究科博士後期課程公法学専攻3年次生)  
 テーマ: 「ドイツ民法832条における未成年監督義務者の監督の契機と程度・範囲について」

【座 長】 小川 浩三(専修大学法学部教授)

(3) パネルディスカッション【13:30~17:15】

統一テーマ: 「超高齢化社会における諸問題・・・持続可能な未来社会はどうあるべきか・・・」

コーディネーター: 森田 悦史(緑鳳学会副会長)

○報告(13:30~16:25)

#### 報告Ⅰ

【報告者】 松原 直樹(桐生大学医療保健学部教授)

【テーマ】 「消滅する自治体の問題と社会保障について」

#### 報告Ⅱ

【報告者】 岡村 陽子(専修大学人間科学部教授)

【テーマ】 「高齢者の脳と心の健康について」

#### 報告Ⅲ

【報告者】 谷口 智紀(専修大学法学部教授)

【テーマ】 「超高齢化社会における財産移転をめぐる課税問題について」  
 (休憩 15分)

#### 報告Ⅳ

【報告者】 岡田 好史(専修大学法学部教授)

【テーマ】 「高齢者犯罪の動向と対応」

#### 報告Ⅴ

【報告者】 馬場 純子(専修大学人間科学部教授)

【テーマ】 「超高齢少子人口減少社会における介護人材養成の課題」

○パネルディスカッション(16:25~17:15)

統一テーマ: 「超高齢化社会における諸問題・・・持続可能な未来社会はどうあるべきか・・・」

(4) 総会(報告)、閉会の挨拶 森田 悦史(緑鳳学会副会長)【17:15~17:30】

※総会は新型コロナウイルス感染拡大に鑑み総会はメールでの実施、懇親会は中止とした。

## Ⅱ. 役員会

### 【令和4年度 第2回役員会】

日 時	令和4年10月7日（金）18時30分～19時50分
場 所	※新型コロナウイルス感染防止のためZoomによるオンライン審議となった。
出席者	近江 吉明、森田 悦史、宇佐美嘉弘、 岡田 好史、坂詰 智美、松原 直樹、矢邊 均（7名）
議 題	<p>新型コロナウイルス感染防止のため、Zoomによるオンライン審議となった。 議事に先立ち、近江吉明会長より挨拶があり、引き続き宇佐美嘉弘代表幹事が議長となり、議事に入った。</p> <p>議題1. 緑鳳学会第31回大会 大会、総会の実施について</p> <p>1) 実施方法について 宇佐美代表幹事から資料の確認の後、近江会長から第31回大会は対面で実施することが説明され、承認された。</p> <p>2) 当日の分担について 宇佐美代表幹事から資料1-1-3に関して文案は事前に本人の了承が得られていることの説明があり、原案どおりで承認された。</p> <p>3) 大会、総会議事録の署名者について 宇佐美代表幹事から資料1-1に関して説明があり、原案に基づき本日出席の岡田好史幹事、坂詰智美幹事に確認を行了承され、原案どおり承認された。</p> <p>議題2. その他</p> <p>1) 緑鳳学会第3回役員会等の開催日について 宇佐美代表幹事から近江会長に確認がなされ、12月16日（金）に対面で実施することが承認された。 会食を伴う実施については、役員会終了後、近江会長、森田悦史副会長、事務局で協議の結果、新型コロナウイルス感染予防の観点から見送ることとし、神田校舎7号館での実施として役員に周知することとなった。</p> <p>2) その他 「査読の実施について」 近江会長から今年度から実施の専修『総合科学研究』への投稿論文に関する査読の実施状況について報告がなされた。形式確認の実施協力について感謝の言葉が述べられた後、査読の実施状況の詳細の報告がなされた。 今年度は査読希望調査票に基づき杉崎千春氏、小澤拓大氏の査読を進めたが、杉崎氏は論説であったが、小澤氏は研究ノートでの掲載希望であり、研究ノートの査読は通常行わないこと等を考慮して、専修『総合科学研究』編集委員会（以下編集委員会）で協議の結果、杉崎氏のみ査読として扱い、小澤氏の研究</p>

	<p>ノートは査読扱いにせず、通常投稿となったことが報告され、了承された。</p> <p>「論文の転載について」</p> <p>近江会長よりの投稿論文に関して転載の許可の照会が緑鳳学会事務局にメールであったことが報告された。</p> <p>照会者は、執筆者に電話で転載の許可を取ったとのことであるが、掲載元である編集委員会としての対応を協議することとなった。</p> <p>照会者 草川 幸子（小金井図書館会計年度任用職員）</p> <p>内 容 自費出版する書籍への転載</p> <p>執筆者 横澤 清子</p> <p>対 象 専修『総合科学研究』第13号（2005年11月） 「碑文から読む“近代”－中島信行の三撰文－」</p> <p>宇佐美代表幹事からは、執筆者である横澤氏と専修『総合科学研究』編集委員会との間で書面の取り交わしが必要ではないかとの提案があり、執筆者の横澤氏から編集委員会に対し転載の許可申請をしてもらおう方向進めることが承認された。執筆者宛の文書、申請書類は近江会長が作成し、事務局から横澤氏に送付することとなった。</p> <p style="text-align: right;">以 上</p>
--	---

### 【令和4年度 第3回役員会】

日 時	令和3年12月16日（金）18時30分～19時27分
場 所	※新型コロナウイルス感染防止のためZoomによるオンライン審議となった。
出席者	近江 吉明、森田 悦史、宇佐美嘉弘、 大澤 史伸、岡田 好史、松原 直樹、矢邊 均、谷ヶ城 秀吉（8名）
議 題	<p>新型コロナウイルス感染防止のため、Zoomによるオンライン審議となった。</p> <p>議長の宇佐美嘉弘代表幹事から開会の宣言の後、近江吉明会長より挨拶があり、その後議事に入った。</p> <p>議題1. 緑鳳学会第32回大会について</p> <p>1) 大会の開催日について</p> <p>近江会長から、慣例として10月の第3週の土曜日に実施していることが確認され、それを踏まえて次回第32回は、令和5年10月21日（土）12時00分～17時30分で実施することが提案され、原案どおり承認された。</p> <p>2) パネルディスカッションのテーマ募集について</p>

宇佐美代表幹事からパネルディスカッションのテーマの募集方法、募集締め切り日案について紹介された。

募集方法は、例年どおり事務局から全役員にメールで募集案内を送付することとし、第4回の役員会で決定する流れとなることが説明された。締め切り日は令和5年3月10日（金）とすることが提案された。また、応募者（採用者）がコーディネーター、パネリストの人選を行うことが補足され、併せて承認された。

引き続き宇佐美代表幹事から事務局に募集の開始時期の確認があり、事務局から1月に第3回役員会の議事録を送付する際に併せて募集についても送付する予定であることが報告され、了承された。

## 議題2. 機関誌「専修総合科学研究第31号」の発行（投稿者等）について

### 1) 投稿優先者について

宇佐美代表幹事から投稿優先者について、役員会として令和4年度第30回大会で発表者の古屋波氏（法学研究科博士後期課程公法学専攻3年次）を推薦することが説明され承認された。

### 2) 原稿募集について

宇佐美代表幹事から募集方法、募集期間、掲載本数について説明がなされた。募集方法については、会員に対して郵送またはメールにより、募集し、募集期間は、2月1日（水）～3月3日（金）とし、掲載本数は、投稿優先者を含め、8本となることが確認され承認された。また、投稿者の決定は応募者の中から第4回の役員会で決定することが補足された。

続いて、近江会長から前年度辞退いただいた4名については今年度に投稿希望があった場合には選考の際には投稿を優先することとなることが説明された。なお、辞退者には優先する旨は伝達せず、投稿があった場合に考慮することが確認された。

その他の掲載事項として、宇佐美代表幹事から第30回大会のパネルディスカッションの要旨について紹介され、コーディネーターの森田悦史副会長に前文をその他のパネリスト5名（松原直樹教授、岡村陽子教授、谷口智紀教授、岡田好史教授、馬場純子教授）に原稿作成を依頼し、令和5年6月中旬締め切りで提出いただく流れとなることが説明され原案どおり承認された。

### 3) 査読について

宇佐美代表幹事から、第31号の投稿優先者古屋波氏については査読を行う前提で進めることが確認された。

また、近江会長から査読や形式確認の作業については、機関誌を発行する立場として投稿された論文に問題がないか検証する仕組みが学会に存在することを掲げておくことが重要であるとの説明がなされた。

続いて宇佐美代表幹事から査読の実施条件について確認がなされた。教授職については形式確認のみとし、若手研究者については希望があれば、学会としては極力希望に沿った形で査読を行う方針が確認された。

なお、査読の希望があっても業績に繋がらない査読は実施せず、形式確認のみとすることが併せて確認された。形式確認には剽窃チェックを含むことも確認された。

続いて宇佐美代表幹事から査読の実施方法について確認がなされた。査読後の書き直しについては原則1回とし、修正が完了しない場合には、掲載不可として扱うことが確認され、承認された。

また、査読の結果、掲載不可となった論文は、査読なしでの掲載も不可となることが近江会長から併せて確認された。また、査読者については、学会員の専門分野の教員1名が行うこととすることが確認され承認された。

### 議題3. 会員名簿について

宇佐美代表幹事から、審議に先立ち個人情報の観点から名簿の掲載内容、管理方法について学会としても検討しなければならない状況であることから、今回の付議となったことが報告された。

原案をもとに審議の結果、従来の住所録の形式から生年、住所、電話番号、卒業年は削除する形式に変更することが提案され承認された。住所データについては、名簿に掲載せず事務局での管理とすることとなることが補足された。

今回の決定を受けて、宇佐美代表幹事から学会への告知手順について確認があり、投稿原稿募集時と機関誌と名簿を送付する際に併せて行うことが事務局から提案され、承認された。また、令和5年度に関しては継続して業者による印刷となる予定であることが報告された。

近江会長から、住所名簿は、従来の名簿には若手研究者等の人事交流のツールとして重要な役割を果たしてきたことは評価しつつも、現在の個人情報保護の観点を踏まえた場合、掲載情報は必要最低限の項目に絞り込むことが最善の方法であるとの説明がなされた。

森田副会長から、名簿の掲載希望の有無の現状について確認がなされ、現状では2名の学会員が名簿への掲載辞退の申し出があることが、事務局から報告された。併せて事務局から1名の退会の申し出があったことが報告され次回の役員会で付議することが確認された。

### 議題4 令和4年度第4回役員会の開催日について

次回の役員会は、令和5年3月24日（金）17時からとすることが提案され承認された。新型コロナウイルスの感染状況を見つつ、原則対面実施で実施する

	<p>ことが確認された。</p> <p>近江会長から年末の挨拶があり、閉会となった。</p> <p style="text-align: right;">以 上</p>
--	--

#### 【令和4年度 第4回役員会】

日 時	令和5年3月24日（金）17時05分～18時00分
場 所	※新型コロナウイルス感染防止のためZoomによるオンライン審議となった。
出席者	近江 吉明、森田 悦史、宇佐美 嘉弘、 李 東勲、大澤 史伸、岡田 好史、久保 成史、坂詰 智美、三森 敏正、 矢邊 均、田中 禎昭（11名）
議 題	<p>新型コロナウイルス感染防止のため、Zoomによるオンライン審議となった。</p> <p>議長の宇佐美嘉弘代表幹事から開会の宣言の後、近江吉明会長より挨拶があり、その後議事に入った。</p> <p>議題1. 令和5年度専修大学緑鳳学会第32回大会開催（タイムスケジュール）について</p> <p>宇佐美代表幹事よりタイムスケジュール案について説明がなされ、原案どおり承認された。</p> <p>議題2. 第32回大会発表希望者について</p> <p>1) 会員への募集について</p> <p>宇佐美代表幹事より会員からの応募がなかったとの説明がなされ、承認された。</p> <p>2) 大学院生への募集</p> <p>宇佐美代表幹事から令和5年4月10日（月）から5月31日（水）の期間で学内での募集を行うことの説明がなされ、承認された。</p> <p>議題3. 第32回パネルディスカッションの統一テーマについて</p> <p>宇佐美代表幹事より会員からの応募がなかったことが報告された。森田副会長からテーマは少子化でコーディネーターを現顧問の小杉伸次先生に依頼したいと考えている旨が報告された。</p> <p>近江会長より、小杉先生には森田副会長から相談いただき、小杉先生の下承が得られた場合には、その結果をもとに令和5年度の第1回役員会に具体的な実施案を提示する方向で、了承された。</p> <p>議題4. 機関紙『専修総合科学研究第31号』原稿掲載希望者について</p>

## (1) 論説、研究ノート、翻訳等

宇佐美代表幹事より投稿優先者である第31回大会発表者からの申込みがあったことが報告された。また、会員からは、5名の応募があったことが報告された。なお、会員からの応募者のうち1名から応募後、辞退の申し出があったことが併せて報告された。宇佐美代表幹事から最終的に原稿掲載希望者が投稿優先者1名と会員4名の計5名となったことが説明され、審議の結果、投稿希望者5名の掲載が承認された。

- ・古屋 波 (専修大学大学院法学研究科博士後期課程公法学専攻3年次・投稿優先者)
- ・後藤 泰一 (信州大学名誉教授)
- ・矢邊 均 (東日本国際大学 経済経営学部 教授)
- ・朝倉 健男 (専修大学 経済学部 助教)
- ・今井 清人 (文芸評論家)

## (2) 第31回大会パネルディスカッションの要旨執筆者

宇佐美代表幹事からその他の掲載原稿として第31回大会のコーディネーター及び報告者5名の要旨の掲載をすることが確認され、承認された。要旨の依頼は、コーディネーターの森田副会長から行うことが併せて報告された。

## (3) 巻頭言・編集後記原稿について

宇佐美代表幹事より巻頭言は、近江会長、編集後記は編集委員長の宇佐美代表幹事が担当することの説明がなされ、承認された。

## (4) 投稿原稿締め切り日(案)

宇佐美代表幹事より原案が提示され、原案どおり令和5年6月8日木曜日で承認された。

## (5) 編集委員会の開催

宇佐美代表幹事から『専修総合科学研究』の編集委員会について説明がなされ、令和5年度第1回の役員会終了後引き続き実施することが提案された。

## 議題5. その他

## 1) 最高顧問望月清司先生逝去について

宇佐美代表幹事より専修大学緑鳳学会役員一同で供花を出したことが報告された。予算外での対応のため事務局が立替を行い、役員で後日徴収することが併せて報告され、承認された。

## 2) 退会希望者

宇佐美代表幹事から2名の会員から大会の申し出があったことが報告され、承認された。

## 3) その他

	<p>最高顧問の望月清司先生の逝去により、現在名誉会長の池本卯典先生を最高顧問に空席となる名誉会長には現在顧問である前会長の小杉伸次先生に就任いただいてはどうかとの提案が矢邊幹事からあり、近江会長より、次年度の役員会で審議する方向とすることが提案され、了承された。</p> <p>議題6. 次回役員会</p> <p>宇佐美代表幹事より次回の役員会は、6月16日金曜日18時30分からハイブリッドでの実施とすることが報告された。また、役員会終了後編集委員会を実施することが近江会長より報告され、承認された。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
--	---

### 【令和5年度 第1回役員会】

日 時	令和5年6月24日（金）18時30分～20時10分
場 所	※新型コロナウイルス感染防止のためZoomによるオンライン審議となった
出席者	近江 吉明、森田 悦史、宇佐美 嘉弘、 大澤 史伸、岡田 好史、久保 成史、坂詰 智美、矢吹 芳洋、矢邊 均、谷ヶ城 秀吉（10人）
議 題	<p>近江吉明会長、森田悦史副会長と協議の上、遠方の役員もいることからZoomによるオンラインを主に対面参加も可としてハイブリッドでの実施となった。</p> <p>宇佐美嘉弘代表幹事が司会で議事を進行することが確認された。議事の進行に先立ち、近江吉明会長より挨拶があり、引き続き宇佐美代表幹事が議事を進行した。</p> <p>議題1. 令和6年度、令和7年度 緑鳳学会役員及び最高顧問、名誉会長の変更に ついて</p> <p>宇佐美嘉弘代表幹事より次期役員について、説明がなされ承認された。</p> <p>なお、役員については令和4年度、令和5年度の役員が継続することとなった。また、2月に逝去された最高顧問の望月清司先生の後任に現在名誉会長の池本卯典先生を池本先生の就任により空席となる名誉会長に前会長で現顧問の小杉伸次先生が推薦され、総会で付議することで承認された。</p> <p>議題2. 緑鳳学会第32回大会 大会、総会の実施方法について</p> <p>宇佐美嘉弘代表幹事より令和4年度第4回役員会で承認された実施スケジュールについて説明がなされた。</p> <p>後述の研究発表の希望者が2名いるため承認された場合には、資料のとおり、午前から開始のスケジュールに変更となることの説明がなされ承認された。</p>

議題3. 緑鳳学会第32回大会 総会議事録の署名者について

宇佐美嘉弘代表幹事より例年役員の中で当日出席予定の役員から選出することが説明され、矢吹芳洋幹事と坂詰智美幹事が推薦され、承認された。

議題4. 緑鳳学会第32回大会 研究発表者及び緑鳳学会への入会希望について

宇佐美嘉弘代表幹事より博士後期課程の学生2名から研究発表希望者があり、かつ準会員として入会の希望があったことが説明され、承認された。これによりプログラムも午前から開始の案に正式に決定した。

法学研究科 博士後期課程 公法学専攻 稲葉 義泰 (いなば よしひろ)

座長 森川 幸一 教授

文学研究科 博士後期課程 哲学専攻 北園 純也 (きたぞの じゅんや)

座長 金子 洋之 教授

・稲葉 義泰

H30.03 専修大学 法学部 法律学科卒業

R03.03 専修大学 大学院 法学研究科 修士課程 法学専攻修了

R03.04 専修大学 大学院 法学研究科 博士後期課程 公法学専攻 入学  
現在3年次在学中

・北園 純也

R02.03 専修大学 文学部 哲学科 卒業

R05.03 専修大学 大学院 文学研究科 修士課程 哲学専攻 修了

R05.04 専修大学 大学院 文学研究科 博士後期課程 哲学専攻 入学 現在1年次在学中

議題5. 緑鳳学会第32回大会 パネルディスカッションについて

宇佐美嘉弘代表幹事より、パネルディスカッションのコーディネーターである小杉伸次顧問の企画案について説明がなされた、依頼中の甘竹秀雄氏から辞退の連絡があり、現状での登壇状況が説明され承認された。併せて、報告の順番は変更の可能性があると補足された。

報告Ⅰ 福島 義和 (ふくしま よしかず) (専修大学名誉教授)

福島 聖子 (ふくしま きよこ) (YMCA非常勤講師) 共同発表

報告Ⅱ 佐々木 重人 (ささき しげと) (専修大学学長、専修大学緑鳳学会最高顧問)

報告Ⅲ 宗村 和広 (むねむら かずひろ) (信州大学経法学部教授)

報告Ⅳ 長谷部 健 (はせべ けん) (渋谷区長) ※後日辞退の連絡有り。

報告Ⅴ 未定 交渉中

<p>議題 6. 緑鳳学会第32回大会 業務分担、タイムスケジュールについて 宇佐美嘉弘代表幹事より、原案について説明がなされ承認された。</p> <p>議題 7. 機関紙『専修総合科学研究』（第31号）執筆者について 宇佐美嘉弘代表幹事より、論説等の提出状況について説明がなされた。査読の希望者は、古屋波氏のみであったことが補足された。また、最高顧問の望月清司先生逝去に伴う追悼文を近江吉明会長が執筆することが説明され承認された。 なお、投稿された論説等の査読、形式確認については、総合科学研究の編集委員会で分担を決定することが補足され了承された。</p> <p>議題 8. その他 近江吉明会長より、第2回の役員会について提示され承認された。 令和5年9月20日（水）15時00分開始</p> <p style="text-align: right;">以 上</p>
--

#### 【令和5年度 第1回 専修総合科学研究編集委員会】

日 時	令和5年6月24日（金）20時10分～20時30分
場 所	※新型コロナウイルス感染防止のためZoomによるオンライン審議となった
出席者	近江 吉明、森田 悦史、宇佐美 嘉弘、 大澤 史伸、岡田 好史、久保 成史、坂詰 智美、矢吹 芳洋、矢邊 均、 谷ヶ城 秀吉（10人）
議 題	<p>近江吉明会長より、令和5年度緑鳳学会第1回役員会終了後引き続き、専修総合科学研究第1回編集会議を開催することが説明された。引き続き編集委員長である宇佐美嘉弘代表幹事が議長となり、議事に入った。</p> <p>議題1 投稿論文の査読及び形式確認の担当者について 宇佐美編集委員長より、今年度投稿者が5名おり、査読希望者が1名であったことが報告された。査読を希望しない4名についても、例年のとおり役員による引用や形式確認を実施することが確認された。 なお、査読は専門分野の担当者が形式確認は専門分野に近い役員が担当することが提案され承認された。 また、近江会長より今井氏の投稿については、事前確認の結果、論説での申請であるが形式として論説の条件を満たしていないため前回の投稿同様、文芸時評となることが説明された。</p> <p>(1) 査読及び形式確認担当者 査 読 古屋 波（担当者 森田 悦史 副会長） 論説</p>

形式確認	後藤 泰一 (担当者)	坂詰 智美 (幹事)	論説
	矢邊 均 (担当者)	大澤 史伸 (幹事)	論説
	朝倉 健男 (担当者)	小西 範幸 (副会長)	論説
	今井 清人 (担当者)	近江 吉明 (会長)	文芸時評
(2) 確認期間			
1) 形式確認			
形式確認期間	令和5年6月16日(金)～6月23日(金)		
修正期間	令和5年6月23日(金)～6月28日(水)		
修正後の確認期間	令和5年6月28日(水)～6月29日(木)		
入稿予定	令和5年6月30日(金)		
2) 査読			
査読期間	令和5年6月16日(金)～6月30日(金)		
修正期間	令和5年7月 1日(土)～7月 7日(金)		
修正後の確認期間	令和5年7月 8日(土)～7月10日(月)		
入稿予定	令和5年7月10日(月)		
			以 上